

# 居住支援相談窓口まごころ



まごころ居住相談窓口



陶生病院ソーシャルワーカー



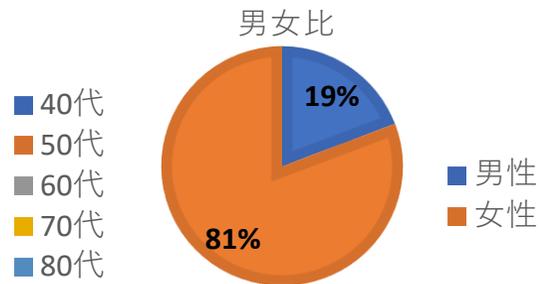
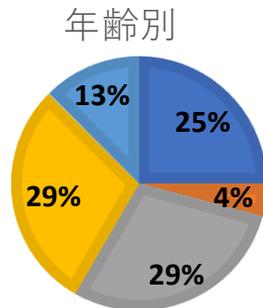
60代以上男性からの相談が多い

## 相談先窓口 25名

瀬戸市役所社会福祉課	6名
瀬戸市役所高齢者福祉課	6名
地域包括支援センター	6名
まごころ居住支援窓口	3名
陶生病院ソーシャルワーカー	1名
市議会議員	1名
他団体	1名
居住相談者知人	1名

## マッチング

不動産を通しての契約	7件
オーナーを通しての契約	2名
県営住宅	1名
施設を検討	2名
環境を整えそのまま生活	3名
転居に向けサポート	5名
転居含め相談中	5名



## 実際に起きた困難事例

---

<対応例> 居住支援まごころの見守りを行いながら連携により下記の対応を行った

- **転居に係る費用の蓄えがあまりない方**の転居相談・・家賃を含む必要生活費の不安
  - ⇒ 敷金礼金・引越し料金の分割、電化製品等リサイクル品の譲渡又は購入
  - ⇒ 生活保護制度の利用
- **親族友人知人等疎遠で孤立した方**の転居相談・・緊急連絡先・保証人なし
  - ⇒ 保証会社で対応、連絡先が分かったのでまごころ職員から親族へ連絡、説明
- **持病又は体調に不安がある方**の転居相談・・孤独死の不安
  - ⇒ 福祉サービス・配食サービスの利用、瀬戸市高齢者見守りシステムの利用
- **過去にトラブルや迷惑行為、妄想や幻聴がある方**の転居相談・・近隣トラブル
  - ⇒ 専門機関との連携、施設入所の検討
- **認知症の疑いや日常生活に不安がある方**の転居相談・・徘徊、ごみ屋敷、近隣トラブル
  - ⇒ 専門機関との連携、施設入所の検討

## 居住支援相談窓口課題 1

---

- 住宅要配慮者が入居することができる物件の確保
- 見守りや生活相談の範囲を超えたトラブルの対応
- 親族や身元引受人がいない方の死後対応

それぞれの強みを出し合いひとつなぎとなるような連携体制をつくる必要がある

起こりうる事を想定し必要な専門機関とつながる必要がある

“家族と縁を切っている/音信不通/連絡先が分からない”

という方の中には支援やサポートが必要な状況でありながら

“人の世話にはなりたくない” “困ったら頼むからいい”

“お金がかかるものは・・・”

など支援やサービス利用を拒む方も多い

説明・提案・アプローチの仕方を考える必要がある

# 瀬戸市の居住支援協議会

---

医療・福祉と住宅の連携

日常的な見守りサポートの実施

公共・民間問わずつながる関係

生活の変化に合わせた必要なサービスの提案

個々のケースごとに課題を考える体制

入居前から入居中・退去、死後までを一繋ぎ

「家を探す・決める」だけでなく、あくまでも本人の意向を大切にしながら

**その人が将来的に安心して暮らせる方法**を検討

◆支援が必要な場合、介護サービスを組み合わせて生活の安定を図る。

◆転居を繰り返すより、状況によっては「施設入所」という選択肢も見据え

**貸す人・借りる人・近隣に住む人みんなが安心して暮らせるまちに**